学校番号	２１５

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｃ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校「数学Ｃ」　（数研出版）						
副教材等	改訂版　新課程　REPEAT 数学Ⅲ＋C（数研出版） ３TRIAL　数学Ｃ〔ベクトル〕（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１年生の「数学Ⅰ・A」から２年生の「数学Ⅱ+B」でも難易度がかなり上がったと思います。それ以上に３年生の「数学Ⅲ+C」はもっと難しくなります。休むと理解が追い付かなくなるので、まずは休まない。休んだ場合は、次の授業までに理解をつなげておくこと。一問を解く長さも長くなるので、計算等丁寧にやり正答率を上げましょう。

２　学習の到達目標

ベクトル、複素数平面、式と曲線について、

【知識及び技能】

基礎的な知識の習得と技能の習熟を目標とする。

【思考力、判断力、表現力等】

事象を数学的に考察する能力を養うことを目標とする。

【学びに向かう力、人間性等】

数学のよさを認識し、習得した知識、習熟した技能、事象を数学的に考察する能力等を活用する態度を育てることを目標とする。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	第一章　平面上のベクトル	1. ベクトル(1) 2. ベクトルの演算(3) 3. ベクトルの成分(2) 4. ベクトルの内積(3) 5. 位置ベクトル(2) 6. ベクトルの図形への応用(2) 7. 図形のベクトルによる表示(3)	a:ベクトルの定義や表し方を理解し、計算をしたり内積を求めることができる。 b:ベクトルを図示したり、図形の性質を理解することができる。 c: 日常の量で、向きと大きさをもつものがあることに興味をもち、それをベクトルで表現しようとする。	定期考査	定期考査	提出物 授業態度
2	第二章　空間のベクトル	1. 空間の点(1) 2. 空間のベクトル(1) 3. ベクトルの成分(1.5) 4. ベクトルの内積(1.5) 5. ベクトルの図形への応用(3) 6. 座標空間における図形(1)	a: 平面上のベクトルについての種々の定義や性質などは、空間においても同様に成り立つことを理解している。 b:平面ベクトル同様、ベクトルを図示したり、図形の性質を理解することができる。 c: 平面上のベクトルの性質などが空間でも成り立つことから、ベクトルの定義が次元によらないことに興味をもつ。	定期考査	定期考査	提出物 授業態度
	第三章　複素数平面	1. 複素数平面(3) 2. 複素数の極形式(3) 3. ド・モアブルの定理(3) 4. 複素数と図形(4)	a:複素数の性質や定義を理解し、計算したり求めることができる。 b:複素数平面上に図示したり、様々な複素数を求めることができる。 c: 複素数平面の定義から，複素数の和，差や実数倍などが複素数平面上で何を意味するか自ら考察しようとする。	定期考査	定期考査	提出物 授業態度
3	第四章　式と曲線	1. 放物線(1) 2. 楕円(2.5) 3. 双曲線(2.5) 4. 2 次曲線の平行移動(2) 5. 2 次曲線と直線(2) 6. 2 次曲線の性質(1) 7. 曲線の媒介変数表示(4) 8. 極座標と極方程式(4.5) 9. コンピュータの利用(0.5)	a: 標準形について理解し、概形をかいたり焦点や頂点、漸近線を求めることができる。 b:軌跡の考えを用いて、曲線の方程式を求めることができる。 c:曲線の方程式の一般形に興味をもち、自ら導き出してみようとする。	定期考査	定期考査	提出物 授業態度

	第五章　数学的な表現の工夫	1. データの表現方法の工夫(3) 2. 行列による表現(7) 3. 離散グラフによる表現(5) 4. 離散グラフと行列の対応(4)	a:行列の計算ができたり、離散グラフの性質を理解することができる。 b:データから正しい情報を読み取ったり、行列からその意味を読み取ることができる。 c: データや行列を表現するのに様々な方法があることに興味をもち、特徴や表現したいことに応じて、方法を検討しようとする。	定期考査	定期考査	提出物 授業態度

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度